

「危険を認知せよ」

神奈川県 愛川町立高峰小学校 6年 ^{こばやし}小林 ^{わか}和奏

—地震や地割れには竹やぶに逃げろ—

と言い伝えがあるそうですが、私の住む町にも沢山の竹林があります。この言い伝えが本当ならば、私の住む町は、最近の異常気象による土砂災害などに強いという事になります。果たして本当なのでしょうか。

私は町の土砂災害ハザードマップを調べてみました。すると私の家のすぐ近くにも「急傾斜地の崩壊（警戒区域）」とされている場所がありました。祖父の所有する竹林の近くも同じ警戒区域とされていました。先の言い伝えはやはり迷信なのでしょう。

調べてみると誤解もある様でした。竹林の土じょうは非常に水分が多いのと、根がネット状に浅く張っているので雨による土砂崩れには非常に弱いそうです。また、手入れが行き届いてない竹林の方が、ひげ根（細かい根）が少なく崩れやすいといわれているそうです。水平なところのよく手入れされた竹林であれば、地震の時にネット状の根のおかげで地割れに効果があるので、昔からこの言い伝えがあるのだとわかりました。反対に斜面の竹林は非常に危険なものだとわかりました。

この様に一つの認識として知っていれば、未然に被害を最小限に防ぐ事につながると思います。他にも土砂災害の前兆としていくつかある事を知りました。一つは、普段出ないところから水が湧いてくる、または、普段湧いている水が止まる。二つ目は、湧き水が異常ににごっている。三つ目は、石がボロボロと落ちくる。四つ目は、井戸や野池の水かさが急激に変わる。五つ目は、雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。六つ目は、山鳴りや立ち木の裂ける音、石のぶつかり合う音が聞こえる。などです。更に実際に被害にあった方の話では、「土砂崩れの少し前に、アンモニアと土が混ざったような、嫌な匂いがしてきた。」と言っていたそうです。これらの前兆を確認し即座に避難していれば、助かった命もあったかもしれません。

また、土砂災害の生存者に共通しているのは、みんな「一階にいなかった」ということです。これは、土砂災害の場合、避難場所まで間に合わない、という時は、「垂直避難」といって、とにかく同じ建物内の高い方に逃げるそうです。一階は土砂で破壊されても、二階部分は建物ごと坂を滑って止まり、二階から脱出することもあったそうです。これにはとてもおどろきました。近くの避難所に避難することしか思いつきませんでした。確かにほんの少し避難がおくれただけで、避難所への道中に被害にあわれた方も少なくないそうです。この「垂直避難」を知っていれば助かったかもしれません。この様に、目で見てわかる前兆と、耳で聴く前兆、そして、鼻で気がつく前兆があるのだとわかりました。

私は、自分の住む町の危険区域や、様々な土砂災害の前兆や、いざという時の避難の仕方などを知っていれば知っている程、自分や家族を守る事につながるのだということを知りました。私の住む町のハザードマップは土砂災害だけでなく、水害、液状化の恐れがある区域などといった場所も印してあります。近所だけでなく自分の行動範囲の避難場所もきちんと知って、災害大国と言われる日本で、どう自分や家族の身を守っていくのかをこれからも考えていかなければならないのだと思いました。